

次期保健医療計画（R6-R11）の 災害時における医療体制について

令和5年3月28日（火）

令和4年度 岩手県災害拠点病院連絡協議会

1 次期医療計画等に関する国の検討状況（計画全体に関する事項）

＜次期保健医療計画作成の視点＞

- 今般の新型コロナの感染拡大により、**地域における入院・外来・在宅にわたる医療機能の分化・強化、連携等の重要性、地域医療全体を視野に入れて適切な役割分担の下で必要な医療を面として提供**することの重要性を改めて認識
- 人口減少・高齢化は着実に進んでおり、**医療ニーズの質・量が徐々に変化**
- 今後は、特に生産年齢人口の減少に対応する**マンパワー確保や医師の働き方改革への対応**が必要
- 質の高い医療の提供や効率化を図る観点から、**ICTの活用や医療分野のデジタル化の推進**が必要

＜災害時における医療①＞ ※第8次医療計画等に関する意見の取りまとめより主なものを抜粋

○ DMAT等の位置付け・明確化

- ・ DMAT・DPAT等の派遣や活動を円滑化する観点から、所属医療機関における隊員の活動に対する理解がより得られ、派遣しやすくなり、また研修や訓練に参加しやすくなるような仕組みの明確化について検討を進める。
- ・ DMAT・DPATは、災害時のみならず、新興感染症のまん延時における感染症患者の入院・搬送調整や感染症専門家と協力しクラスターが発生した施設等における感染制御等の活動に対する支援を実施する。

○ 多職種連携

- ・ 災害時において、都道府県は様々な保健医療活動チームと協力することが必要であることから、災害時に円滑な連携体制を構築可能にするため、保健医療福祉調整本部の下、様々な保健医療活動チームと共に訓練を実施し、災害時におけるそれぞれの必要な役割を確認する。

2 次期医療計画等に関する国の検討状況（計画全体に関する事項）

＜災害時における医療②＞ ※第8次医療計画等に関する意見の取りまとめより主なものを抜粋

○ 災害時に拠点となる病院、拠点となる病院以外の病院

- ・ 都道府県は、精神疾患を有する患者・小児・妊婦・透析患者等、特に災害時においても配慮を有する被災者に対応できる体制構築について平時より検討する。
- ・ 災害時に拠点となる病院以外の病院においては、災害発生時に自院にいる患者への診療を継続するために、平時から、業務継続計画（BCP）を策定した上で、施設の耐震化や、自家発電機の整備、また、燃料の備蓄等を含めた必要な防災対策を実施するほか、EMISを用いて発災時に自らの被災情報を発信できる体制の構築を徹底し、災害時には災害時に拠点となる病院とともに、その機能や地域における役割に応じた医療の提供に努める。

○ 止水対策を含む浸水対策

- ・ 浸水想定区域や津波災害警戒区域に所在する災害拠点病院は、風水害が生じた際の被災を軽減するため、止水板等の設置による止水対策や、自家発電機等の電気設備の高所移設、排水ポンプの設置等による浸水対策を講じる。
- 令和5年2月28日付け厚生労働省医政局長通知「災害拠点病院指定要件の一部改正」により、以下が追加となったもの。

浸水想定区域（洪水・雨水出水・高潮）又は津波災害警戒区域に所在する場合は、風水害が生じた際の被災を軽減するため、止水板等の設置による止水対策や自家発電機等の高所移設、排水ポンプ設置等による浸水対策を講じること。

（令和6年4月1日より適用。既に指定している災害拠点病院は、当面の間、指定継続が可能）

○ 医療コンテナの災害時における活用

- ・ 災害訓練や実災害時において、また、イベント時の事故等への備えにおいて、医療コンテナを活用し有用性を検証する。

3 次期 岩手県保健医療計画（R6-R11）の策定に向けて

(1)現在、国から示されている内容に関連して、本日ご意見等をいただきたいもの。

参考資料 2 第8次医療計画等に関する意見のとりまとめ（R4.12.28）

参考資料 3 5 疾病・5 事業について（その2）（R4.7.27）

国検討会資料から
災害医療を抜粋

(2)次期保健医療計画（R6-R11）における災害時における医療体制については、

- ・ 国の検討状況を踏まえ、現行計画の内容をベースとすることとし、必要に応じて見直し内容を検討する。
- ・ 災害医療に係る計画見直し（案）を整理後、委員の皆様にご意見をいただく予定。

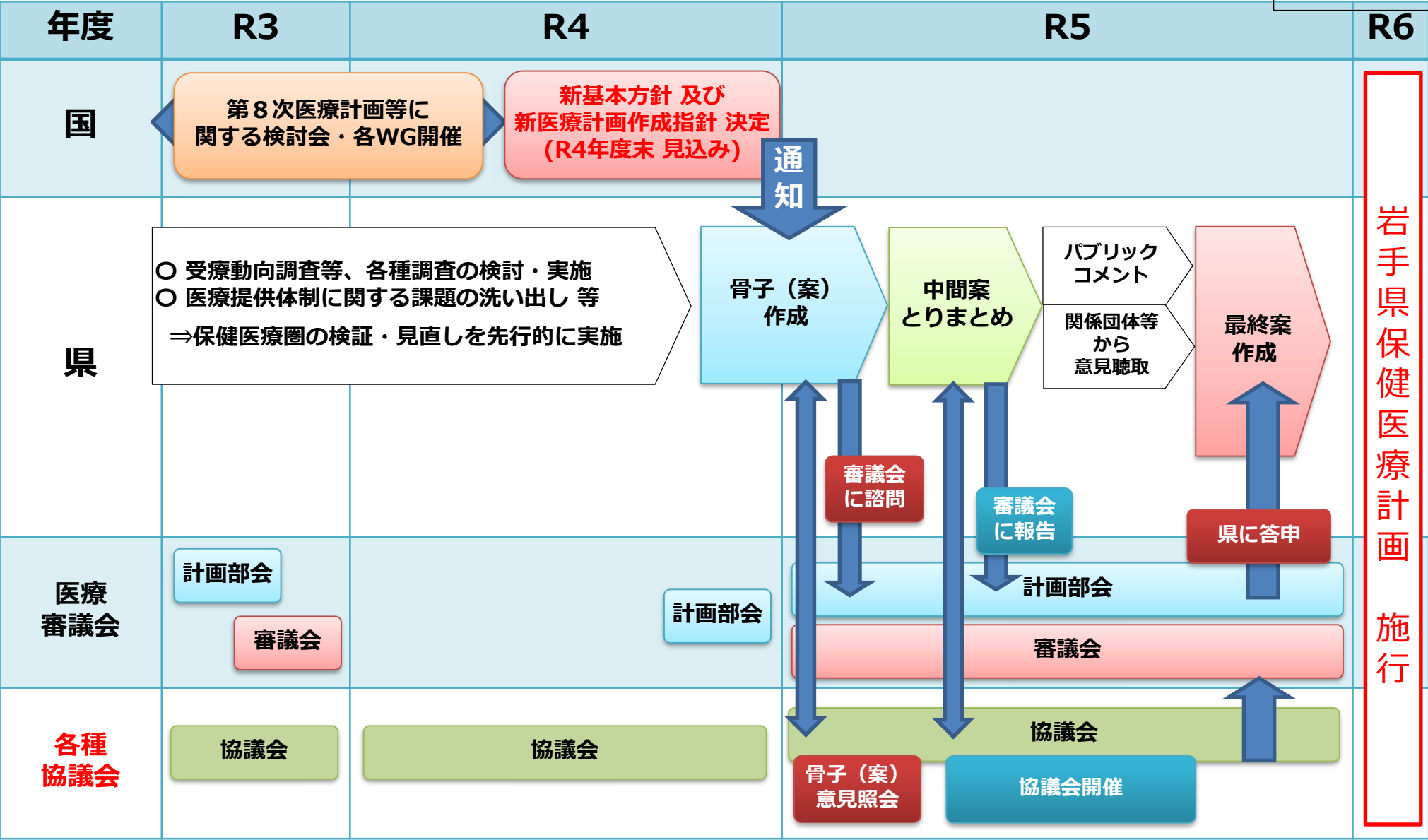


現行の岩手県保健医療計画



【参考】次期 岩手県保健医療計画（R6-R11）の策定スケジュール

【資料 4】
R4災害拠点病院
連絡協議会
R 5 . 3 . 2 8



岩手県保健医療計画 施行